

## 結果の表示

回答者

5 匿名

32:39

完了までの時間

### 1. 申請者氏名（所属・職名） \*

申請者の氏名・本学所属・職名をご入力ください。

例：東経太郎（経済学部・教授）

国井昭範

### 2. 申請者メールアドレス（事務連絡用） \*

連絡が取れるメールアドレスをご入力ください。

XXXXXXXXXX

### 3. 推薦区分 \*

推薦区分を以下から選択してください。

- 自薦
- 他薦（推薦者）※専任教員
- 他薦（被推薦者）

### 自薦/他薦（被推薦者）

エントリー期間：2026年1月5日(月)00:00～2026年3月31日（火）23:59

### 4. 授業科目名 \*

申請する授業科目名（※2025年度開講）を入力してください。

雇用の変化とキャリア形成

### 5. シラバス（URL） \*

申請科目のシラバスURLをご入力ください。

<https://portal.tku.ac.jp/syllabus/public/pubShowSyllabus.php?sno=182714&rlcd=11642-003&mt=0&year=2025>

## 6. 該当する達成基準 \*

申請科目が該当すると考える達成基準を以下から選択してください。

※複数回答可

- 全学や学部の3ポリシー実現に寄与する取り組み
- 授業実践における課題への取り組み
- 学修者主体の教育への取り組み
- 本学の教育の質向上に資する取り組みであり、他の授業の参考となる取り組み

## 7. 教育実践の目的・目標 \*

申請科目を通じて目指す教育目標をご入力ください。

### I 教育実践の目的・目標

本実践は、以下の目的・目標に基づいて設計・実施した。

#### 1. 教育実践の目的

学生が授業の学習目標を理解した上で、自ら学習成果を判断・評価できるようにする授業内容の構築を目指した。

#### 2. 教育実践の目標

・「雇用とキャリア」の授業において、雇用環境および就職活動を見据え、将来のキャリア形成に資する内容を扱った。

・本実践では、就職活動における「志望動機作成」に焦点を当てた。

・志望動機作成では、企業が求める職業能力を踏まえた自己開示・自己呈示に加え、企業への貢献意識を具体的に表現することが求められるため、就職活動において難易度が比較的高い項目であった。

・以上を踏まえ、学生が学習効果を実感し、自己評価に基づいて改善できる学習方略の構築を目的として、生成AIを用いたルーブリック評価活動を実施した。あわせて、講義とグループワークを組み合わせ、AI活用を統合した授業設計を行った。

・取組名：「就職活動の志望動機における生成AIを用いたルーブリック評価からの学び—企業分析・自己開示・自己呈示のバランスを検討しながら—」

## 8. 取り組み内容 \*

申請科目における、独自の工夫や先進的な取り組みの具体的な内容をご入力ください。

### II 取り組み内容

以下に、本実践で実施した取り組みの概要を示す。

#### 1. 「雇用の変化とキャリア形成」の概要

- ・本授業は、「労働市場」および企業の雇用（採用）の動向を扱い、将来の進路選択とキャリア形成に資する知識と視点の獲得を目的とした。
- ・業界・業種・労働法の特徴を踏まえつつ、雇用環境の変化を読み取り、採用側の意図を理解した上で、自分らしいキャリア形成（自身の志向・価値観に基づく）を見据えて進路を決定する重要性の理解を促した。

#### 2. 学習指導方法

- ・講義と演習を組み合わせた対面授業で実施した。
- ・個人ワークおよびグループでのディスカッション、全体発表を通じて理解を深めた。

#### 3. グループワークの特徴

本授業では、多様な他者との対話機会を確保するため、毎回ランダムに座席を割り当てた。

- ・Responで取得した出席データを基に、Excelマクロで座席表を自動生成し、指定座席へ移動させる運用とした。
- ・毎回異なるメンバーで協働することで、多様な視点に触れ、他者の意見から学ぶ機会を促進した。

#### 4. 対象学生

2年生17名（37%）、3年生20名（43%）、4年生9名（20%）の計46名が履修した。本授業では、2年生には就職活動の予習、3年生には活動の実践支援、4年生には活動の振り返りとして位置づけた。

また、毎週ミニツッパパーを課しており、文章力（日本語表現、誤字脱字、思考の整理）には一定のばらつきが見られた。

#### 5. 今回自薦する取組背景

##### （1）はじめに

本実践（生成AIを用いた志望動機のルーブリック評価活動）で評価対象とした志望動機は、学生が生成AIを用いず自ら作成した。これを前提に、学生が納得できる評価の実現を目指し、生成AIを活用した志望動機のルーブリック評価を実施した。

##### （2）就職活動における志望動機作成の問題

近年、多くの企業がエントリーシート等の提出書類を通じて学生を評価しており、自己PR・学生時代に力を入れたこと・志望動機は主要な記載項目となっている。なかでも志望動機は、企業理解と自己理解を接続して表現する必要があるため、学生にとって作成の難易度が高い。困難さは主に以下の6点に整理できる。

- ① 志望動機の要求理解が不十分：志望動機に求められる要素が曖昧なまま記述され、必要要素を満たしているか自己点検が難しい。
- ② 貢献意識の言語化が難しい：貢献内容が具体化されない場合、採用側は入社後の活躍像を想定しにくい。
- ③ 業界・企業研究の負担が大きい：業界・企業の特徴や課題を踏まえて記述する必要があり、企業ごとに志望動機を作成する負担が生じる。
- ④ 率直な表現を避けがち：志望度を言い切りにくく、表現が一般的・曖昧になりやすい。
- ⑤ 将来像との接続が求められる：自己理解に基づくキャリア形成の見通しを盛り込み、企業理解と接続しながら更新していく必要がある（インターン等の接点形成を含む）。

⑥ 生成AI利用の拡大と企業側の警戒：生成AIを用いた文章は一般的・没个性的になりやすく、企業側の警戒もあるため、安易な使用は適切な評価につながらない可能性がある。

なお、本来この種の文章作成は、他者理解と自己理解を接続して表現する力（相手を理解し、自身の強みを適切に伝える力）を基盤とするため、一定の指導や訓練により向上が見込まれる。一方で、その観点が明確にならない学生にとっては、志望動機作成の難易度が高くなりやすい。

以上より、志望動機作成には「相手（企業）を理解し、自身の強みや将来像と接続して表現する」ための観点が必要である。したがって、ルーブリックに基づく自己評価・自己点検を通じて、必要要素を可視化し、改善点を把握できる学習活動は有効と考えられる。本実践では、志望動機を自ら評価できる知識の獲得を目標とした。

## 6. この授業の契機

2025年10月1日に開催された東京経済大学FD研修会「測りすぎの時代の学習評価のあり方—評価を教師にも学生にも意味のあるものにするために—」に参加し、講師より以下の先行研究の紹介を受けた。

・岩崎千晶・松河秀哉（2024）「文章校正における言語生成AIとルーブリックによる個別フィードバックの活用」『日本教育工学会論文誌』48（Suppl）, pp.141-144.

同研究は、生成AIとルーブリックを用いた個別フィードバックにより、学習者の自己評価と改善を促す実践を報告している。これを踏まえ、本実践では就職活動の志望動機を対象に、自己評価を促すプロンプト（ルーブリック評価用）を作成した。

## 7. 生成AIで用いたルーブリック

ルーブリック（プロンプト）の全文は別掲のとおりである。あわせて、評価観点の要点は以下のとおりである。

- （1）志望動機の要件（定義、企業への貢献意識、業界・企業研究、入社後のキャリア形成等）に関する記述の充足度を評価する。
- （2）文章構成の論理性を、PREP法に基づき評価する。
- （3）各観点は1～4点の4段階で判定する。

## 8. ルーブリックの妥当性確認

作成したプロンプトの偏りを低減するため、他大学のキャリア教育担当教員1名と、企業の新卒採用担当者に内容の確認を依頼した。その結果、志望動機に求められる要素を概ね網羅しており、学習効果が期待できるとのコメントを得た。

## 9. 実際に実施した授業の流れ

### （1）作成ポイントの提示

教員が志望動機の要件（定義、企業への貢献意識、業界・企業研究、入社後のキャリア形成等）を説明し、これらをルーブリック評価の観点として提示した。

### （2）企業選定と志望動機作成

・学生は就職四季報を参照し、原則として企業1社を選定して志望動機（目安400字）を作成した。個人情報（氏名・学籍番号等）は記載しないよう指示した。

・また、400字内で最低限求める要素（企業理解・自己開示・自己呈示・貢献）を周知し、自己開示・自己呈示に心理的負担がある場合は無理に記載しないことを認めた。

### （3）グループでの事前自己評価

生成AIによる評価の前に、グループで志望動機の出来具合（企業理解、貢献の具体性等）を相互に確認した。

### （4）プロンプト配布

教員がmanabaにてプロンプトを配布し、授業内で使用するため公開期限を設定した。

### （5）生成AIによるルーブリック評価

- ・学生は各自が利用する生成AIにプロンプトを入力し、作成した志望動機を貼り付けて実行した。
- ・個人情報を入力しないことを再度指示した。
- ・生成AIは原則自由選択とし、操作に不慣れな学生にはグループ内での相互支援を促した。

#### (6) 結果の共有と振り返り

グループで評価結果を参照し、学べた点や改善点を共有して言語化した。

#### (7) 学習内容の記録

- ・学習内容の定着を目的として、manabaに「学んだこと」「理解した要素」「他者からの学び」等を自由記述で記録させた。
- ・なお、アンケート結果は本申請の目的に限って使用した。

#### (8) 授業設計上の工夫（補足）

- ・授業は、内化（個人）→外化（協働）→内化（個人）の学習プロセスに基づいて設計した。
- ・本学の教育資源（manaba、Respon、書画カメラ、生成AI、就職四季報等）を活用して実施した。

参考：[https://www.jstage.jst.go.jp/article/kakyoshi/64/12/64\\_596/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/kakyoshi/64/12/64_596/_pdf/-char/ja)

#### (9) 生成AI使用に関する指導（補足）

生成AIによる出力は常に正確とは限らないことを説明し、結果はあくまで参考として扱うよう指導した。加えて、本学「TKUベーシックカブック」の「データサイエンスAIの利活用」を参照するよう口頭で周知した。

## 9. 具体的な成果 \*

取り組みを通じて得られた具体的な成果をご入力ください。

### III 具体的な成果

以下に、本実践の結果を示す。

#### 1. 成果の概要

- (1) 難易度の高い志望動機作成に対する学習意欲の向上が見られた。
- (2) 生成AIを学習ループリックとして活用することで、全学生が個別フィードバックを受け取る機会を確保できた（講義の個別指導化の補完）。
- (3) 志望動機の完成に対する一定の納得感が、学生の振り返り等において確認された。
- (4) 志望動機には、熱意の表現、相手理解、企業研究等の複合的能力が必要であるという理解が深まった。
- (5) 評価結果の共有と対話を通じて、他者の視点に触れる学習機会が得られた。
- (6) ループリックに基づく自己点検を通じて、改善点を特定し、修正方針を言語化する観点の獲得が促進された。
- (7) 生成AIを補助的に活用しつつ、最終的には自身の経験・価値観に基づく表現へと再構成する傾向が見られた。

#### 2. 以下は、実施後の学生の自由記述コメント

自由記述回答については内容に基づきカテゴリに整理した（コメント本文は原文のまま記載）。

（質問内容：生成AIを使用して、志望動機を作成することで、何が学べましたか？）

##### (1) 学習意欲・関心の向上（動機づけ）

- ・自分の作った志望動機に何が不足していたかが明確にわかってよりいい志望動機を作成することができると思った。
- ・自分には考えられなかった視点からのツッコミがあり視野を広げることができた。
- ・志望動機は今回初めて書いたので、どのような部分が自分には書けていて、逆にどのような部分が自分には足りなくてどのような部分を延ばしたら良いのか学ぶことが出来ました
- ・強みや志望動機の伝え方のレパートリーが増えたと思う。
- ・完全にコピペして真似するのではなくて、評価してもらったり、参考にする程度には良いと思った。

##### (2) 文章構成・内容の改善方略の獲得（自己理解・企業理解の接続）

- ・生成AIで志望動機を作ってみて、文章の順番やわかりやすさを学べました。でも、AIだけでは自分の経験や気持ちはうまく入らないので、最後は自分の考えを足すことが大事だとわかりました。
- ・生成AIを活用して志望動機を作成する過程で、自分の経験や価値観を言語化する重要性を学びました。AIは表現を整えてくれますが、自身の体験や感情が具体的でなければ説得力のある文章にならないことに気づきました。また、企業の理念や事業を理解したうえで、自分との接点を示す必要があると実感しました。AIの提案を参考にしつつ、自分自身の言葉で伝える姿勢が大切だと学びました。
- ・自分の経験や強みをどのように企業の特徴と結びつければよいのか、その「結びつけ方の型」も学べた。AIによる例文を読むことで、普段は意識しにくい企業の特徴の取り入れ方や、具体例の深め方が理解しやすくなり、自分では気づけなかった視点に触れることができた。さらに、AIが生成した文章を比較したり修正したりする過程で、逆に「自分は何を大切にしたいのか」「どこが自分らしさなのか」を再確認できた点も学びとして大きい。AIはあくまで補助であり、その文章をどう自分の言葉に変換するかを考えることで、志望動機の核心である自己理解が深まった。

##### (3) 初学者への支援（作成基準の明確化）

- ・そもそも志望動機を書いたことがなかったので、どのような内容をどのくらいの分量で

書いた方がいいのかわからなかったがAIからのアドバイスのおかげで大体の指標を知ることができた気がする。

#### (4) キャリア支援資源の活用意識 (キャリアセンター等)

・志望動機の作成は想像以上に奥深く、早期から準備と練習が必要だと実感しました。今後はキャリアセンターや友人と相談しながら、企業研究を深め、自分らしさを表現できる志望動機を作成していきたいと思います。また、企業文化や事業内容をしっかりと理解し、表面的ではない具体的な貢献内容を考えることの重要性も学びました。この学びを今後の就職活動に活かしていきたいです。

#### (5) 生成AIの補助的活用に対する有用感

・面白い。一人一人にフォーカスしてくれているのでキャリア相談に近いと思う。  
・先生や、キャリアセンター職員などに相談できる環境にいらなくても、自分に足りないところを知ることができるのが良いところだと思った。AIをうまく活用することでいい志望動機が書けると思った。

### 3. ミニツツペーパーによるアンケート結果 (当日授業出席者: 36名)

授業終了時にミニツツペーパーでアンケートを実施した (5件法)。

- ・生成AIを使用することで「志望動機」の学びにつながったか: 平均4.5 (SD=0.69)
- ・生成AIによる評価結果は納得できる内容だったか: 平均4.4 (SD=0.69)

### 4. 今後の課題

ルーブリック評価は、結果が即時に得られる点で学生の関心が高く、積極的に参加する学生が多かった。一方で、以下の課題が残る。

(1) 文章作成能力には個人差があるため、基礎的な文章表現力の底上げを図り、志望動機の質向上につなげる必要がある。

(2) 本実践では作成段階の自己評価 (pre) を実施していないため、次年度は改稿前後 (pre・post) の志望動機を同一ルーブリック (A~G: 後掲のルーブリック参照) で評価し、観点別平均点の変化を指標として学習効果を検証する。

(3) 90分では学習時間が十分とは言い難く、各作業が過密になった。次年度は時間配分の再設計 (例: 2コマ連続の実施) を検討する。

(4) 学習が興味・関心にとどまる学生も見られたため、アウトカム (就職活動への動機づけ、将来のキャリア意識等) の検証方法を検討する。

(5) 生成AIの操作が難しい学生に対して、代替手段 (紙ルーブリックによる相互評価等) を整備する。

---

「生成AI」による志望動機ルーブリック

※所定の記入欄の制約により、ルーブリック (全文) は割愛する。